

FreeBSD によるサーバ構築 おぼえがき

龍谷大学 理工学部 小島肇

kjm@rins.ryukoku.ac.jp

このプレゼンで説明しないこと

■ 一般的なこと (ex. kernel の作成方法) については説明していません。各自で資料を参照してください。

- handbook (/usr/share/doc/ja/books/handbook, <http://www.freebsd.org/ja/handbook/>)
- FAQ (/usr/share/doc/ja/books/faq/, <http://www.freebsd.org/ja/FAQ/>)
- <http://www.freebsd.org/ja/>
- <http://www.jp.freebsd.org/>

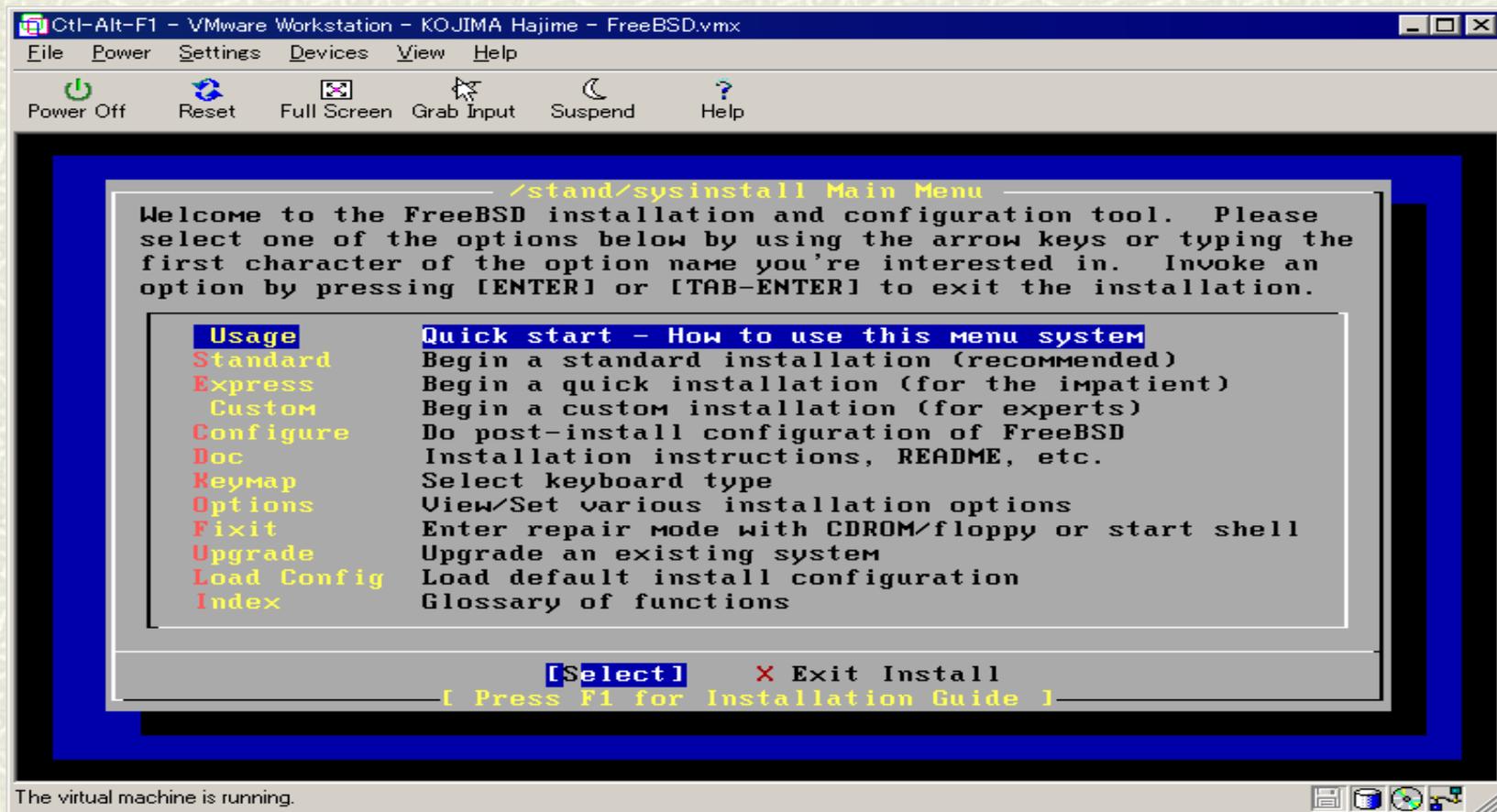
Why FreeBSD?

- # FreeBSD is free.
- # 安定して動作する
- # 利用者が多い 情報が多い
 - S/N 比も高い
- # セキュリティもがんばっている
 - ports のセキュリティ勧告を出しているのは *BSD 中 FreeBSD だけ
 - OS の binary patch の配布も開始
- # 全体が単一の OS である安定感
 - モジュール構造の Linux にも便利な点はある...

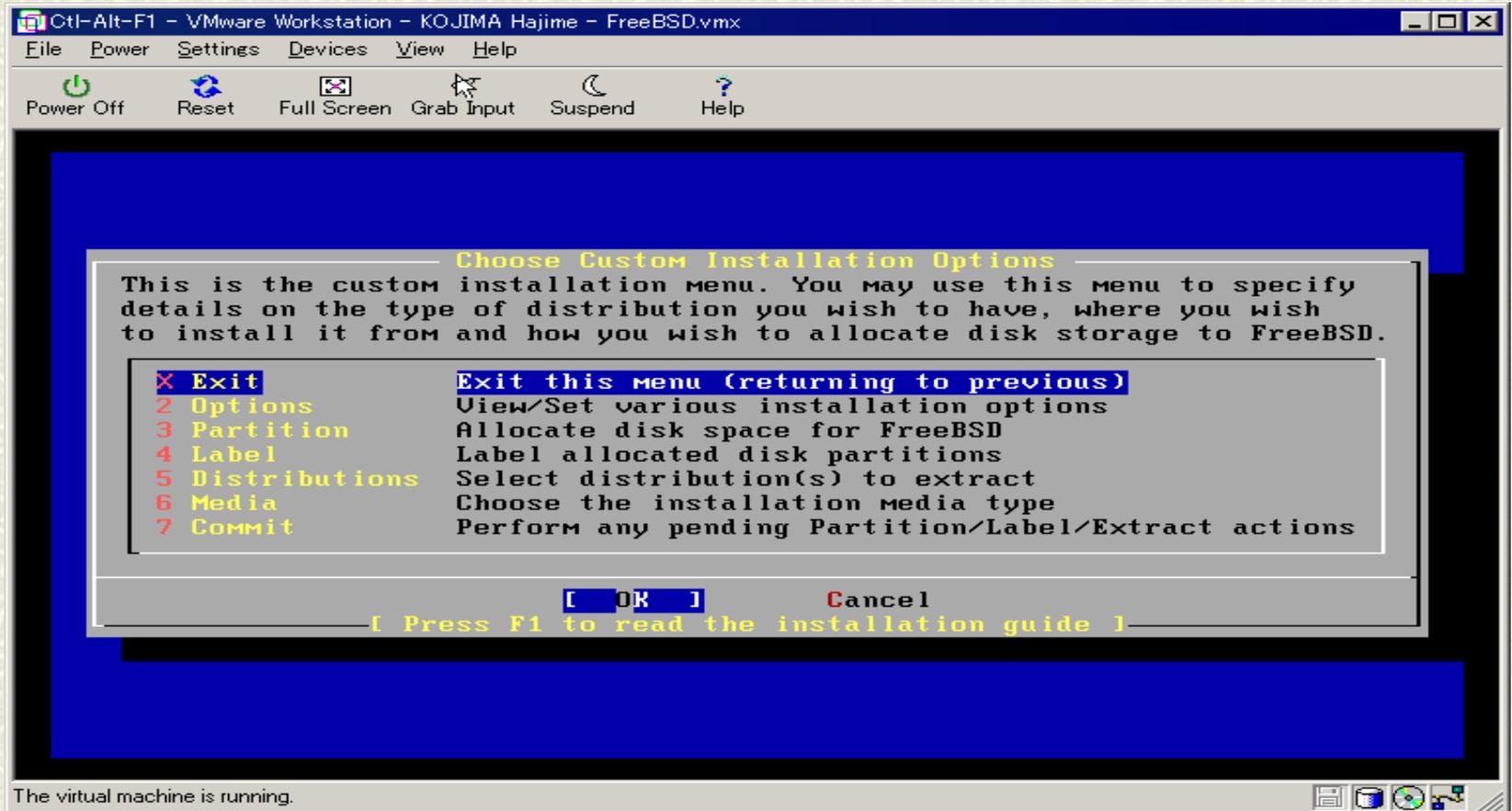
インストール

- # ぶつう、最新リリース版ですよね
 - ようやく 4.4-RELEASE が出たようです
 - -stable も、たま～にアレゲなことがあるようです
 - 4.3-RELEASE から、「RELENG_4_3」という「最低限の fix」のためのブランチがつけられるようになった
 - 当然 RELENG_4_4 もつけられている

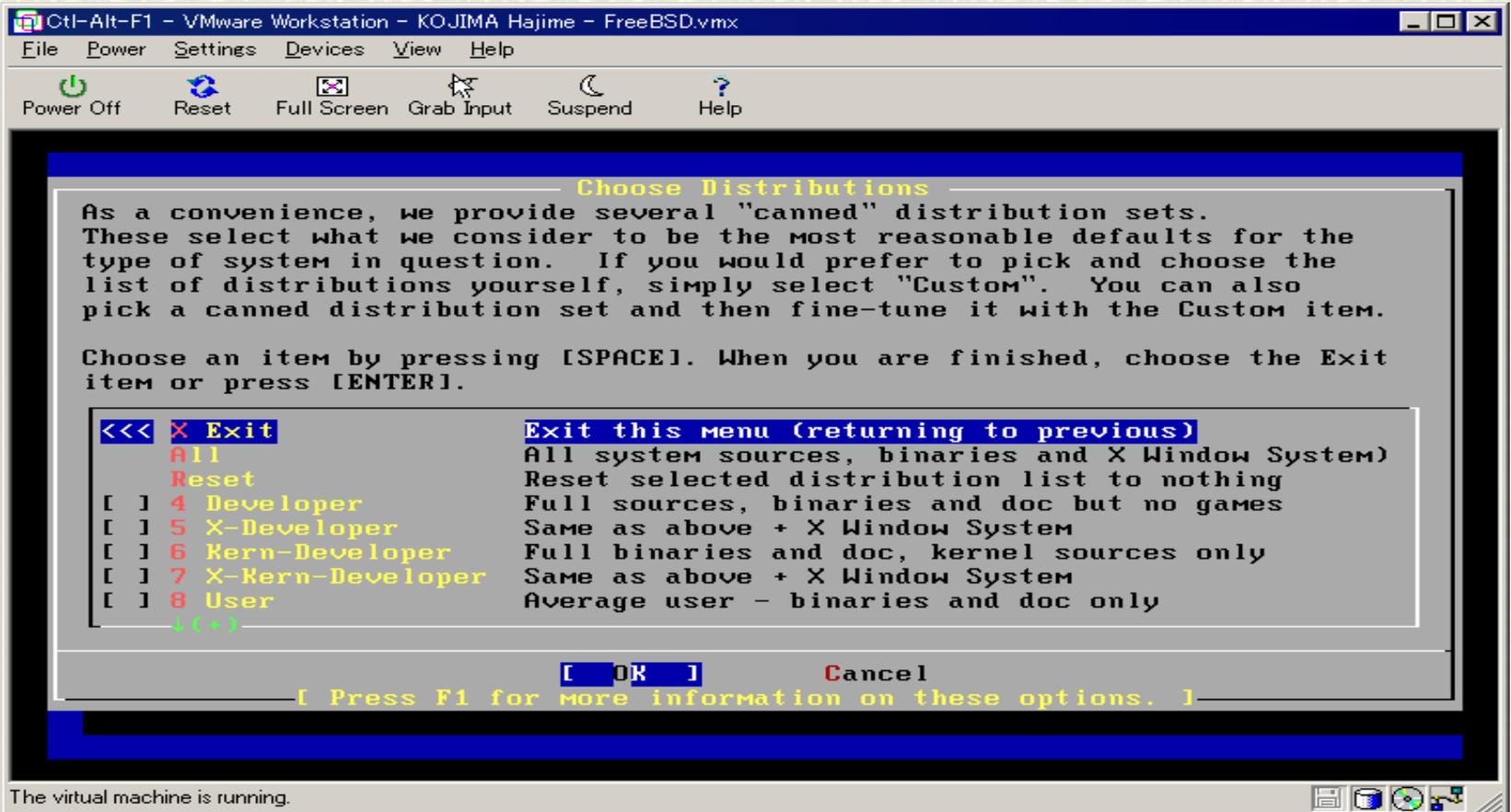
インストール



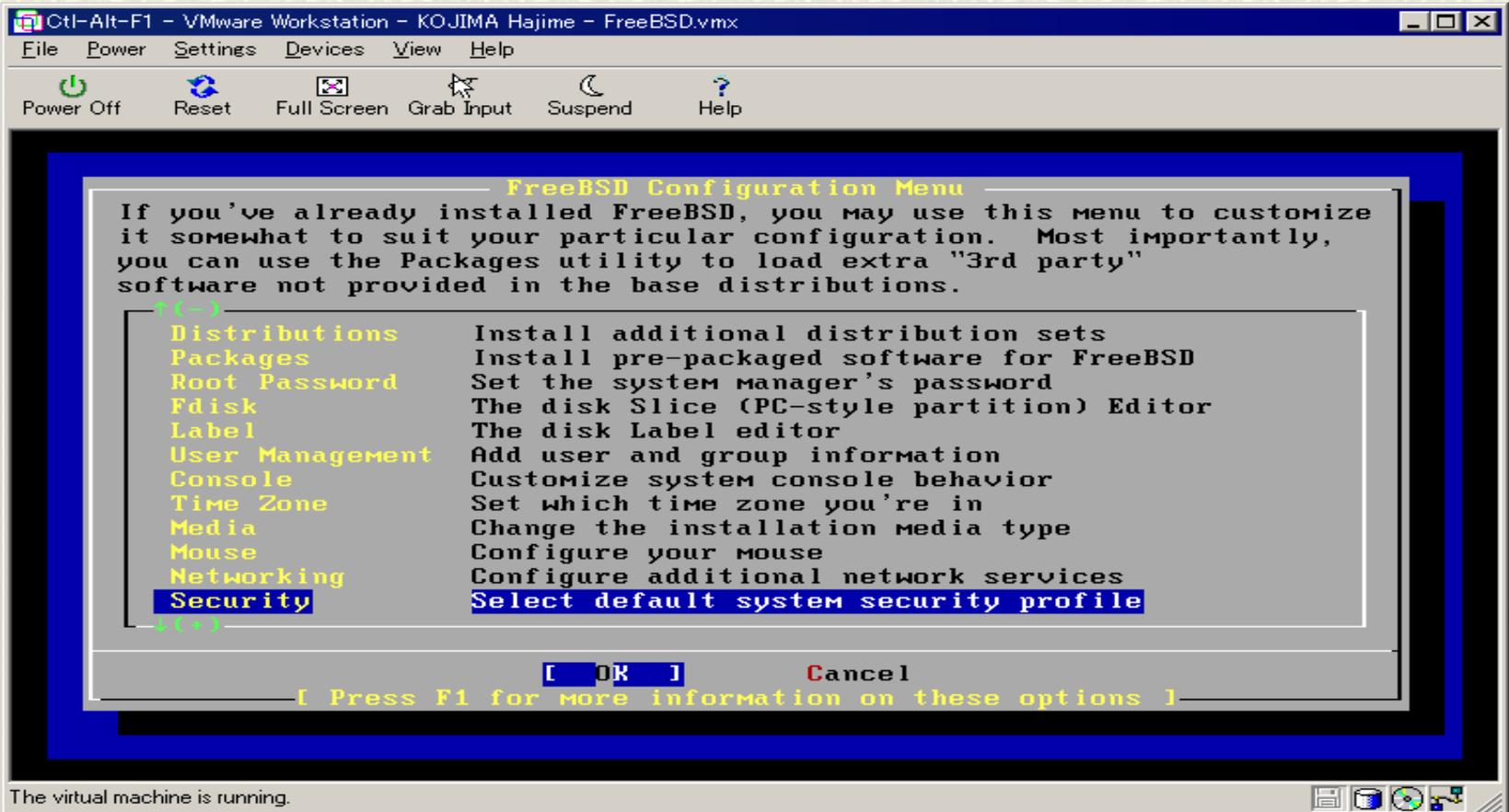
Custom Installation



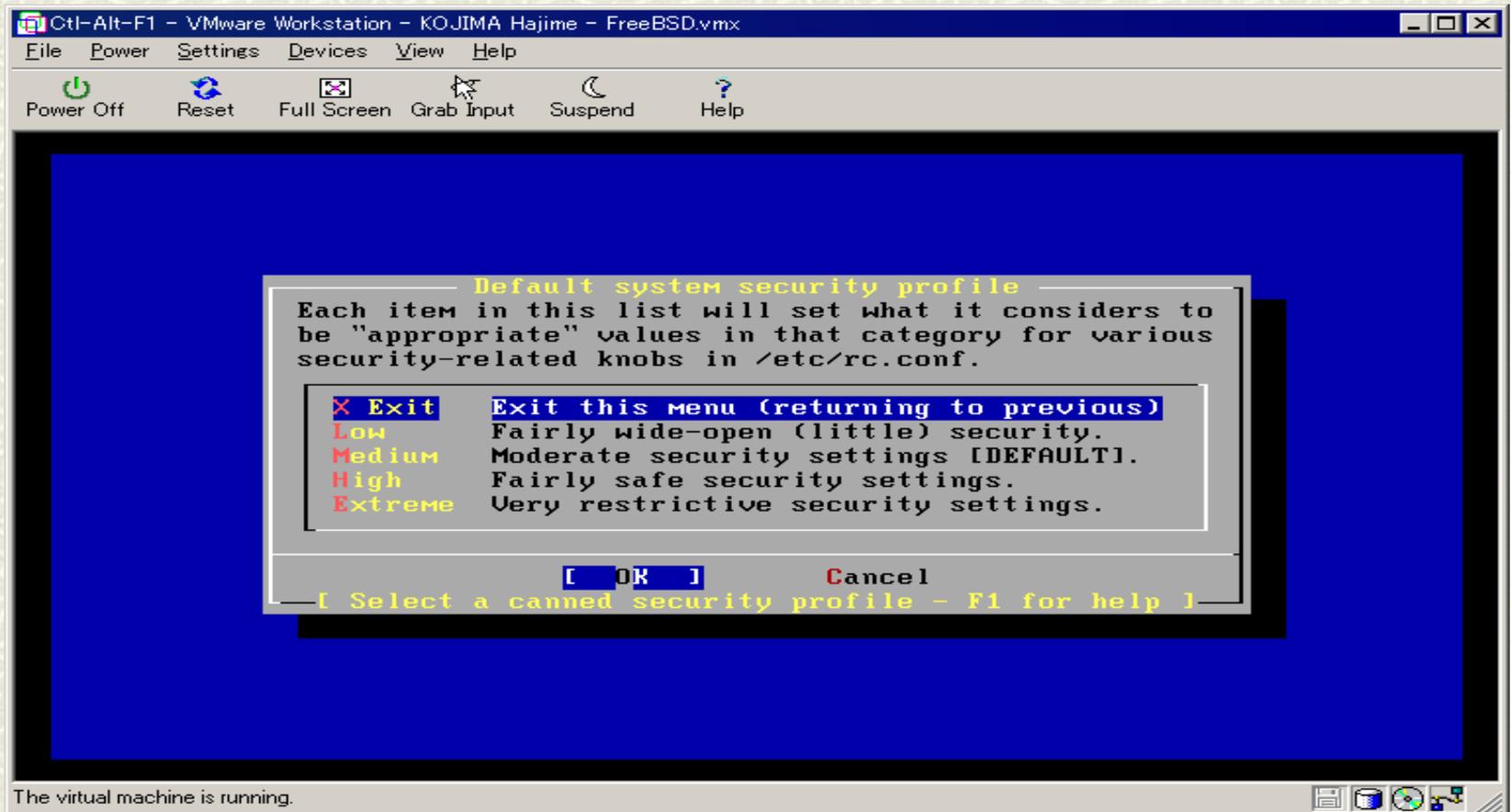
Distribution



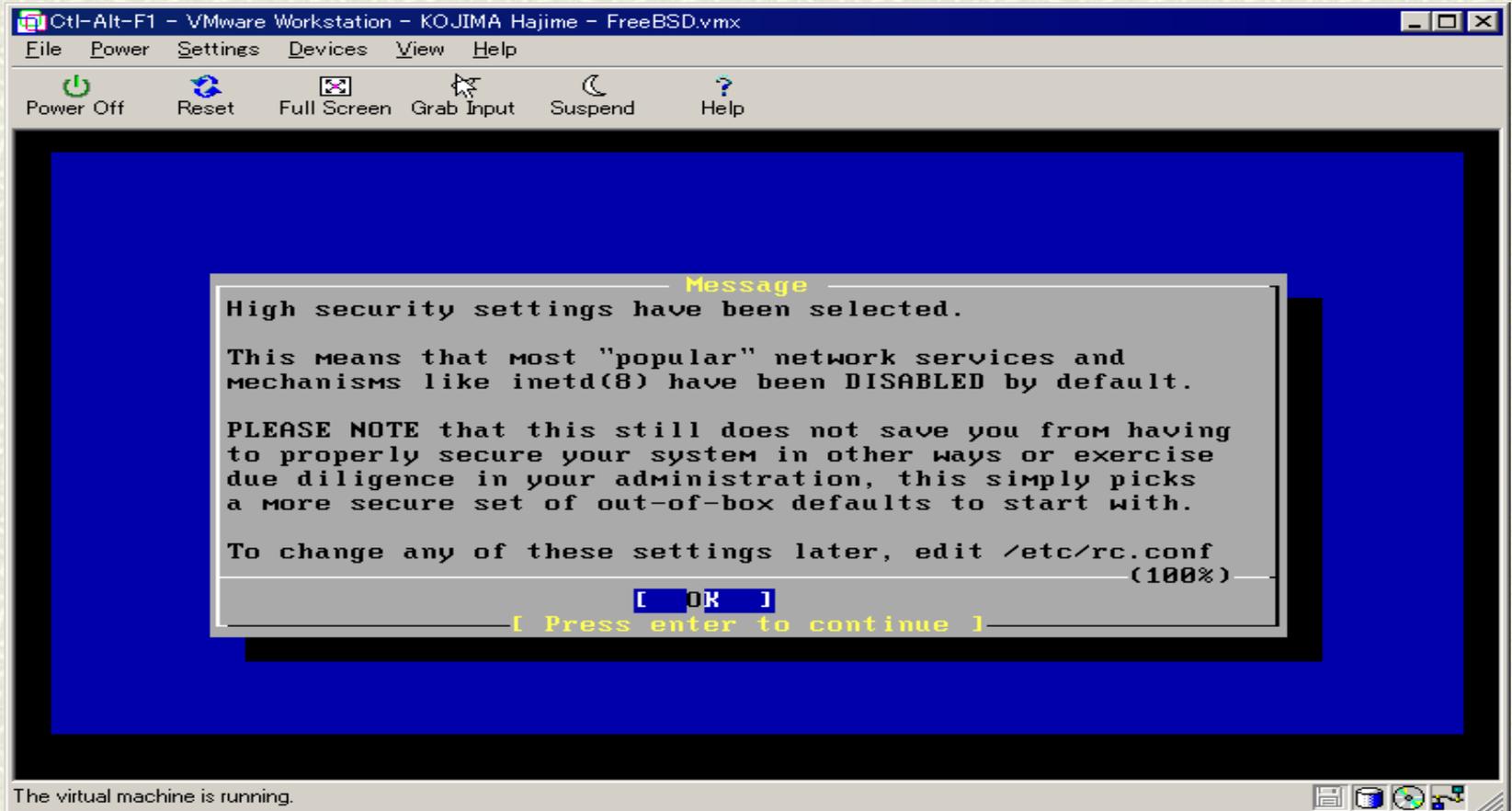
FreeBSD Configuration Menu



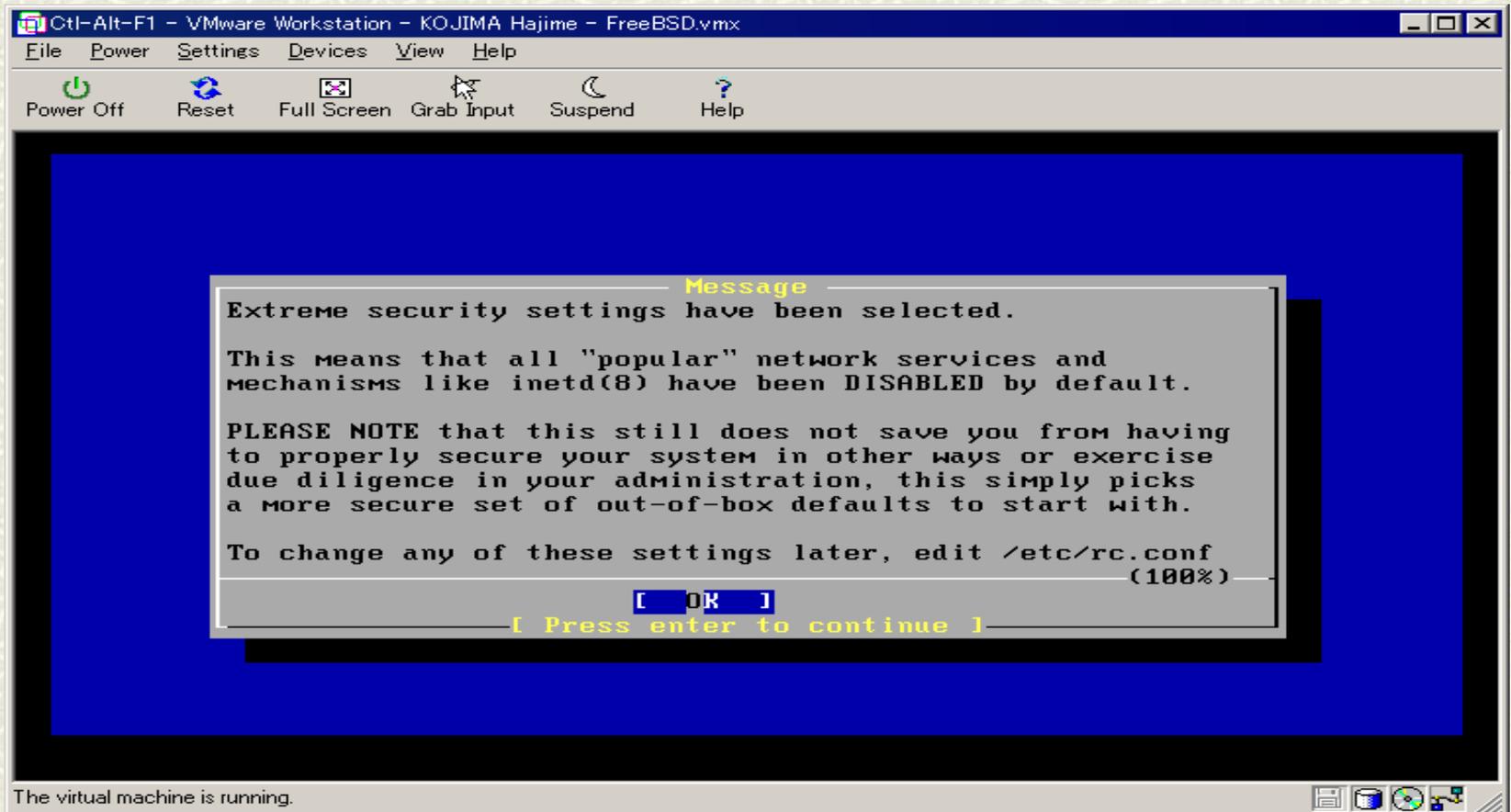
Default system security profile



system security = high



system security = extreme



再起動

- # うまく boot しなかったら....
 - 悩んでください :-)

セキュリティパッチの適用

- # 既存のセキュリティパッチを適用しておく。
 - <http://www.freebsd.org/ja/security/>
 - <http://www.freebsd.org/releases/4.4R/errata.html>
- # コマンド、ライブラリなどについては即時に
make all; make install
- # kernel patch については、patch 適用後に
kernel の調整を行う過程で調整

kernel の調整

kernel config の基本:

<http://www.freebsd.org/ja/handbook/kernelconfig.html>

個人的にやってること:

- maxusers は増やす (最低 128)

- 4.4-RELEASE では動的に制御できるようです

- bpf は外す

- nmap とか snort とか iplog とかを使う場合は bpf がないと困るんだけど...

kernel の調整 (cont.)

- options:
 - SC_DISABLE_REBOOT
syscons コンソールドライバでの CTRL-ALT-DEL リブートを禁止
 - IPFILTER, IPFILTER_LOG
ip-filter を使っている
 - TCP_DROP_SYNFIN
SYN+FIN なパケットは落とす (web server には推奨されないようです)
 - TCP_RESTRICT_RST
RST がいっぱい来たら落とす (DoS 対策)
 - ICMP_BANDLIM
ICMP 帯域制限 (DoS 対策)
- 詳細は /usr/src/sys/i386/conf/LINT を

kernel の調整 (cont.)

/etc/sysctl.conf (例)

kern.ipc.somaxconn=1024

kern.ipc.maxsockets=16384

kern.ipc.nmbclusters=65536

kern.maxfiles=32768

kern.maxfilesperproc=16424

/boot/loader.conf (例)

hw.ata.wc=1

hw.ata.tags=1

- 4.4-RELEASE では hw.ata.wc=1 はデフォルトで有効のようです

kernel の調整 (cont.)

/etc/rc.conf

```
tcp_restrict_rst="YES"
```

```
tcp_drop_synfin="NO"
```

kernel の調整 (cont.)

kernel securelevel

| | |
|----|---|
| -1 | なんでもあり (default) |
| 0 | single user 時は -1 と同じ。multi user 時に 1 と同じ。 |
| 1 | mount しているファイルシステムの raw デバイス、/dev/mem、/dev/kmem には write アクセスできない。kernel module は load できない。変更不可フラグ、追加のみフラグ (ls -lo で確認できる) を無効にできない。 |
| 2 | mount していない raw デバイスも write アクセスできない。unmount できない。時間の変更は 1 秒以内。 |
| 3 | IP フィルタルール、dummynet 設定を変更できない。 |

kernel の調整 (cont.)

kernel securelevel (cont.)

■ 例:

```
kern_securelevel_enable="YES"
```

```
kern_securelevel="1"
```

■ **たとえば** kern_securelevel="1" の場合に kernel の upgrade をしようとすると...

- **一旦** kernel_securelevel="-1" で reboot

- kernel インストール

- **再度** kernel_securelevel=1 で reboot

- file integrity checker **情報を更新?**

■ kernel securelevel はリブートしないと下げられない

userland の調整

/etc/inetd.conf

- ftpd には -l をつける (-l -l)
- telnetd には -h -U をつける
- 他は止める
- /etc/rc.conf で inetd_flags="-wWl" する

One-Time Password

- telnetd や ftpd を使うならぜひ...
- S/Key と OPIE が使える
 - 安定度 – S/Key, RFC 準拠 – OPIE
 - FreeBSD の「標準」は S/Key
 - 私は S/Key の出力を RFC ライクに変更して使っている

userland の調整 (cont.)

/etc/rc.conf

- 各種 daemon の起動制御
- /etc/default/rc.conf を見ながら...

/etc/login.conf

- :minpasswordlen=8: を追加

/etc/syslog.conf, /etc/newsyslog.conf

- 好みに応じて...
- 私は、デフォルトよりは長めに記録するよう newsyslog.conf を変更している

TCP/IP フィルタリング

ipfw

- FreeBSD 標準
 - MacOS X でも使える
- dummynet(4) を利用した帯域制御
- netgraph(4) を利用した細かい制御 (?)
 - すんません、よく知りません...
- /etc/rc.firewall にわかりやすい実例あり。設定例:
firewall_enable="YES"
firewall_type="client"

TCP/IP フィルタリング (cont.)

ip-filter

- 多くの UNIX で使える
 - *BSD, Linux, Solaris, HP-UX, AIX, ...
- 広く利用されている
- ライセンスがアレゲ
 - 独自に patch あてたものを配布できない、とか...
 - OpenBSD は ip-filter を捨て、pf (packet filter) へ
- /etc/rc.conf 記述例:

```
ipfilter_enable="YES"  
ipfilter_program="/sbin/ipf -Fa -f"  
ipfilter_rules="/etc/ipf.rules"
```

TCP/IP フィルタリング (cont.)

- 機能的には、ipfw は ip-filter に劣らない
 - むしろ、今では優れている?

tcp_wrapper による接続制限

■ /etc/hosts.allow で定義

- たいていの Linux distrib. と違い、PROCESS_OPTIONS が有効になった tcp_wrapper がインストールされているので注意。/etc/hosts.deny は使わない。hosts_options(5) 参照。
- inetd, sendmail, portmap, ssh に tcp_wrapper が組み込まれている。
- OS をアップグレードすると、/etc/hosts.allow は常に初期状態 (サンプルファイル) になってしまうようだ。必要なら /usr/tmp/etc/hosts.allow から戻すなりしよう。

その他の接続制限

- **かな漢字変換サーバ Canna - /etc/hosts.canna**
 - 接続を許可するホスト名を記述
 - localhost からの接続のみを許可するなら:
localhost
unix
unix は UNIX ドメインソケット。
- **ラインプリンタデーモン lpd - /etc/hosts.lpd**
 - 接続を許可するホスト名を記述
- **TCP/IP パケットフィルタも設定した上で、上記も設定することが望ましい。**

設定のヒント

/etc/ipf.rules の原型

- /usr/src/contrib/ipfilter/mkfilters

ingress/egress filter rule

<http://www.sans.org/dosstep/index.htm>

- /etc/rc.firewall の simple で定義されている (ipfw)
- /usr/src/contrib/ipfilter/IPF.KANJI が参考になる (ip-filter)

default allow? default deny?

- 状況に応じて...

/usr/ports/security/ みてある記

■ メールサーバ用 anti-virus ソフト

- amavis-perl
- inflex
- drweb-sendmail (drweb.ru)
- [qmail-scanner](#) (qmail 用、ports にはない)

■ 脆弱性スキャナ

- arirang (web server)
- nessus (全般)
- saint (全般)
- nmap (port scanner)

みてある記 (cont.)

IDS

- aafid
- snort
- portsentry – portscan detector

file integrity checker

- aide
- integrit
- tripwire (古いやつ...1.x 用)
 - [2.3.1-2 port](#)
- chkrootkit

みてある記 (cont.)

password cracker/checker

- john
- crack
- 10phtcrack
- cracklib
- checkpassword

log checker

- logcheck
- swatch

みてある記 (cont.)

暗号化

- openssh
- openssh-portable
- lsh (GNU ssh)
- zebedee
- cfs – cryptographic file system

danger tools

- dsniff

others

- ca-roots

...and now, network is battlefield.

for more info:

- <http://www.jp.freebsd.org/>
- <http://www.st.ryukoku.ac.jp/~kjm/security/memo/>